

【授業改善】

○ケーススタディ

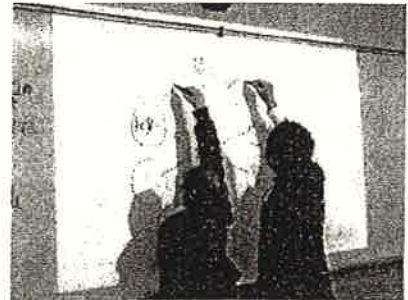
1 鳥取県立鳥取商業高等学校の事例

- (1) 科目
「マーケティング」
- (2) 内容
PR活動、会社の役割
- (3) ケーススタディの流れ
 - ① ケース教材の内容に対する理解を深める。
 - ② グループで討議する。
 - ③ 各グループの考えをホワイトシートにまとめる。
 - ④ ファシリテータが指定した班によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。
 - ⑤ ワークシートを活用してまとめと振り返りを行う。
- (4) 討議の視点
次の視点で討議し、その後、商品PRと企業PRの違いを考え、パブリックリレーションズの必要性を考えさせる。
ア ダイアモンド電機株式会社は、ダイヤモンドフェスティバルを開催することにより、地域の方に何を伝えたかったのか。
イ ダイアモンド電機株式会社は、ダイヤモンドフェスティバルを開催することで、地域及び社員に対してどのような効果を得られたと考えるか。
ウ 企業を取り巻くステークホルダーは、どのような人が考えられるか。
- (5) 生徒の役割分担
各グループのメンバーには、次のとおり役割を与えている。それにより自己の役割を果たす意識を持たせるとともに、討議や質疑応答が充実する効果が生じている。

担当	役割
社長（班長）	人事権、議事進行、決定権
広報部長	記録及びプレゼンテーション
調査部長	他のグループへの質問
お客様相談室長	質問、クレーム、コメントへの対応
オールマイティ	全役割の相談役、補佐

- (6) 学習評価
次の観察シートを活用して評価している。

観察シート					
科目「マーケティング」					
学年 第2学年 第2学期 2 応用					
学習活動	ケース教材を活用し、企業を取り巻く多様な人々（利害関係者）を予測し、パブリックリレーションズ（PR）の必要性を考察する。				
評価の観点	思考・判断・表現	学習活動に 関した評価項目	ケース教材を読み、自分の考えをまとめる意見発表のための準備活動を行い、自分の考えを他の人に伝え、グループ討議、クラス討議により自分の考えの修正を判断できる。		
グループ	生徒の番号	氏名	役割	評価	観察事項
1 (7名)	1 2		班長	A B C	
	3 4		広報部長	A B C	
	5 6		調査部長	A B C	
	7		お客様相談室長	A B C	
			オールマイティ	A B C	
				A B C	
				A B C	
6 (7名)	1 2		班長	A B C	
	3 4		広報部長	A B C	
	5 6		調査部長	A B C	
	7		お客様相談室長	A B C	
			オールマイティ	A B C	
				A B C	
				A B C	



ステークホルダーについての発表

ケース教材（抜粋）

平成25年10月19日（土）、鳥取市JR津ノ井駅付近は大勢の人で賑わっていた。その答えはすぐにわかった。鳥取市南栄町にあるダイヤモンド電機株式会社鳥取工場がダイヤモンドフェスティバル13が開催されていたのだ。

【ダイヤモンド電機株式会社】
ダイヤモンド電機株式会社は大阪市淀川区に本社を構え、日本の自動車産業勃興期に我が国で初めて自動車用点火コイルメーカーとして産声をあげた。主力商品である自動車用点火コイルや電子制御機器等の開発・製造・販売を行い、鳥取工場や三重松阪工場など10の国内拠点が設立され、新潟、米国、ハンガリー、中国、インド、タイ、韓国、インドネシアなどに関連会社がある。

鳥取市には、1967年5月に鳥取ダイヤモンド電機（株）が設立され、1981年1月、津ノ井駅に近い鳥取市南栄町に工場を建設、1989年11月、ダイヤモンド電機に吸収合併され、現在のダイヤモンド電機（株）鳥取工場となる。従業員は約600人。本校の卒業生も多数勤務している。

会社の社是には『健康に努めよう』『信頼に応えよう』『明日に向かって前進しよう』と書かれており、英語でも翻訳されている。この社是は2代目社長が苦勞して考えたものであり、人生と仕事を支えるべくフィロソフィー（経営哲学）は今の世の中でもマッチし、少しも色褪せていない。現在では3代目社長がその意志を大切に引き継いで経営に携わっている。

【ダイヤモンドフェスティバル】
青空のもと、ダイヤモンドフェスティバル13には午前10時のオープニング前から近隣住民やファミリー、学生など、すでに多くの人が並んでいる。本社より代表取締役社長が出席され、挨拶のあとフェスティバルは始まった。会社の敷地内にはやきとり、うどん、カレー、わたあめなど15のテントで社員が来場者の方々と楽しそうに会話をしながら販売をしている。

屋外では和太鼓演奏やしゃんしゃん傘踊り、鳥取県発のアイドルユニット『だいやあ☆もんど』の出演、自社製品が搭載されている自動車メーカーの新車紹介などが行われた。屋内では社員食堂を開放し射的や輪投げなど、子どもたちが楽しそうに社員と遊んでいる。

ダイヤモンドフェスティバルの目的を代表取締役社長にお聞きすると、次のような答えが返ってきた。
「ダイヤモンド電機は、運送用の大きなトラックを使用しています。道路に出るとき、お年寄りや子供たちにとって危険ですが、それを許していただき仕事をさせてもらっています。また、交通渋滞を招くこともあります。ですから、日頃お世話になっている人や地域の皆様、社員の家族の方々に感謝の気持ちを込めて開催しています。地域への貢献であり、コミュニケーションなのです。」

この日、ダイヤモンドフェスティバルの来場者は約1,000人。この活動を通じて得られた収益金は地域福祉活動の一環として寄贈される。



○知識構成型ジグソー法

1 概要

あるテーマについて、異なる視点でまとめられた資料を用意し、それを基にして生徒が自分なりの説明を作って交換し、交換した知識を統合してテーマ全体の理解を深めたり、テーマに関連する課題を解決したりする協調的な学習方法の一つ。

指導の流れ

- ①問いを設定する。
- ②問いを解くために必要な部品を説明する資料を用意する。
- ③同じ資料を読み合うグループを作り、他のグループの人に説明するための活動（エキスパート活動）を行わせる。
- ④異なる資料を読んだ生徒を一人ずつ合わせてグループを作り、担当した内容を説明し合い、問いの答えを導き出す活動（ジグソー活動）を行わせる。
- ⑤答えとその根拠を全体に発表し、互いの発表を検討する活動（クロストーク活動）を行わせる。

2 鳥取県立鳥取商業高等学校の事例

(1) 授業の概要

授業プランのとおり

(2) 具体的な学習活動

① エキスパート活動（10分）

3つのエキスパート班に分け、それぞれ次の内容について理解を深めさせる。

A班：客層の変化

大手コンビニエンスストアの客数に占める女性の比率の推移、年齢別の1日1店舗当たりの平均客数のデータを資料として示し、そこから読み取ることができることをまとめさせる。

B班：様々な顧客ニーズへの対応

商品開発、品ぞろえ、店内レイアウトの事例を資料として示し、様々な顧客を念頭に置いた工夫や新規顧客を取り込むための品ぞろえについてまとめさせる。

C班：サービスの多様化

食材等の配送サービス、生活基盤としての機能の充実の事例を資料として示し、宅配サービスのターゲットやコンビニエンスストアが担っている役割についてまとめさせる。

② ジグソー活動（15分）

各班で話し合った内容を他のメンバーに説明させる。聞き手の生徒には、ワークシートに記入させ理解を深めさせる。また、ジグソー活動を通して導き出した班としての考えを、ホワイトシートにまとめさせるなどクロストーク活動の準備を行わせる。

③ クロストーク活動（15分）

グループでまとめた結果をクラス全体に発表させ、導き出したことをクラス全員で共有させる。

(3) 生徒の状況

ここで取り上げた内容を含めて4つの課題で実施している。すべての課題での学習を終えた後のアンケート調査では、授業の理解度については、91%の生徒が5段階評価の4以上としている。知識構成型ジグソー法での学習を通して、自分の意見をしっかりと持ち、それを相手に伝えることができるようになることは、将来あらゆる場面で生きてくると思う、といった声が聞かれている。

授業プラン

- 1 科目
「ビジネス基礎」
- 2 内容
ビジネスの担い手（小売業者）～コンビニエンスストアの役割
- 3 教材のねらい

コンビニエンスストアは、生徒にとってなじみのある存在です。成長が続いているコンビニエンスストアの活動や動向を様々な角度から考察するとともに、社会の中での役割についてイメージできるようにする。

4 授業のデザイン

課題 コンビニエンスストアは、なぜ成長が続いているのだろうか？

○このエキスパートで
おさえてほしいポイント
【客層の変化】
・利用者については、
若者の利用が減少傾向で、
女性や高齢者の利用が増えてきて
いる。

○扱う内容、活動
◆客数に占める女性の
比率の推移
◆年齢別の1日1店舗
当たりの平均客数

○このエキスパートで
おさえてほしいポイント
【様々な顧客ニーズへの
対応】
・女性や高齢者に対する
商品開発や品ぞろえ
を行っている。
・店内の商品配置は女性
が入りやすいように
工夫している。

○扱う内容、活動
◆商品開発の事例
◆ニーズに対応した幅
広い品ぞろえ
◆顧客を呼び込む店内
レイアウトの工夫

○このエキスパートで
おさえてほしいポイント
【サービスの多様化】
・コンビニエンスストアは
公的インフラとしての役割を担っ
ている。

○扱う内容、活動
◆食材等の宅配サービス
◆生活基盤としての機能の
充実

期待する
回答の
要素

コンビニエンスストアが成長している理由

- ①今まで若者の利用が多かったが、近年は女性や高齢者の顧客が増えている。
 - ②女性・高齢者などを中心にして、新たな顧客を取り込むために、PB商品の開発や「いれたてコーヒー」の提供など、幅広い商品を取り扱い始めた。
 - ③買い物に行けない人への食材等の宅配サービスを実施するなど、コンビニエンスストアの幅広いサービスの提供は社会ではなくてはならない役割を担っている。
- このように、コンビニエンスストアは、特に利用が増えてきている女性や高齢者を対象にして商品開発や品ぞろえをするとともに、食材等の宅配サービスなど幅広いサービスは利用者に対して公的なインフラとしての役割を担ってきているため、成長が続いている。